

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570714295		
法人名	有限会社 桂		
事業所名	グループホームかつら		
所在地	秋田県湯沢市川連町字大館屋布前124		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の場所へ移転して一年三か月ですが、利用者様は混乱も見られず、スムーズに穏やかな日常生活をおくっています。職員を含め馴染みの関係でお互いを認め合い家族のような生活が送れているからと思います。入居者様の高齢化、認知症の進行及び、ADLの低下に合わせたその人らしい日常生活が送れるよう職員が統一したケアを心がけています。また、推進会議をはじめ、有識者をお招きし、講話を聴く機会を設けたり、第三者委員等の外部の声を広く聴きサービスに反映しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるようなサービスという理念を全職員がしっかり念頭におきながら支援にあたっており、さらに、年長者である利用者的人格を尊重することを大切にしているため、家庭的な雰囲気の中でも言葉遣いや対応の仕方はとても丁寧である。運営推進会議で出された提案や意見に対しては迅速に対応し、さらに、事業所を発展させていくための意見を関係者に求めて参考にするなど、地域に密着した事業所として常に向上していこうとする姿勢が強く伺われる。職員からも積極的に提案があり、出された提案についてもすぐ実践されているので、自分の意見が言いやすい風通しのよい職場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生きるための支援をすることを基本理念とし、共有と実施に向け日々取り組んでいる	全体会議の際に理念について管理者から話があったり、機会があるごとに理念に立ち返るようにしている。利用者一人ひとりの個性を尊重し、「その人らしい」過ごし方ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の足湯は地域の方々も利用され、交流の場となっている。又、納涼祭は地域に直接案内を手渡すなど交流を持つように努めている	敷地内に設置した足湯や、法人内のショートステイで行事があればそちらに参加して地域の人と交流の機会をもてるようにしている。また、会社主催でイベントを開催し、地域の方に参加してもらうことで事業所と地域とのつながりを深める機会を作っている。	利用者と地域の方の顔の見える関係作りに向けて、より積極的に取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方たちの月2回のボランティアを受け入れている。交流する中で、認知症の理解や支援方法について学んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、ヒヤリハット報告等、施設内の情報を詳細に報告している。意見交換された事柄はサービスに反映できるように努めている。	運営推進会議の中で、避難訓練への近隣住民の参加について話題になり、すぐに近隣住民に避難訓練への協力を求め実際に訓練に参加してもらうなど、会議で出された意見が迅速に実施され、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議や、地域ケア会議に市の担当者も出席しており協力関係を築いている	運営推進会議に市の担当者が出席し助言をもらっているほか、地域ケア会議には包括支援センターの職員が参加しており、法改正などについて情報提供してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けや見守りで安全に配慮し、行動の規制をしない支援をしている。施設内研修で身体拘束の理解を深めている。又、玄関の施錠も夜間以外には行っていない	センサーマットやベッド柵などについては、家族の同意をいただいた上で、必要最小限の範囲・時間帯で使用している。また、所長自らが講師となり、身体拘束についての研修を行い、職員全員が共通認識をもって理解できる取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が正しく理解できるよう研修会を行っている。又、虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度を利用している利用者があり、担当者の来訪時には職員が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にご家族からの意見や希望等を伺い納得して頂けるよう十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画の説明時にご家族の要望や意見を聴くように努めている。出された要望は第三者委員報告会で報告し運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望を伝えやすい雰囲気作りをしているが、今のところ運営に関する意見や要望は出されていない。意見・要望が出された場合に迅速に対応する組織体制は整えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、申し送り等で職員の提案や意見を聴くようにしている。又伝達ノートを使い情報を共有している	職員からは利用者の支援に関するだけでなく、日課の時間の変更や記録用紙の効率化など、業務の内容についても積極的に提案が出されており、管理者は出された提案については、「まず試してみる」という姿勢を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表で個々の努力や勤務態度の把握に努め向上心をもって働けるよう、職場環境や条件の整備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの力量を把握できる限り研修に参加している。又、全体会議に有識者を招き職員研修のために助言を頂くこともある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク協議会や地区ケア会議に参加し、意見交換している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にご本人の思いや希望を聴き安心感を持って頂けるよう支援している。又、利用後は可能な限り要望を受け入れ信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と家族から要望等を聴き、利用後はご本人とかかわりを持つように心がけご家族へ情報を伝えるようにし信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のかかわりを大切にし、職員が意図的に介入したり、共に支え合う気持ちを持ち「共生」を心がけて生活している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には常にご家族のニーズを聴き取りし、共にご本人を支えていく関係を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけることはめっきり少なくなっている。知人やご家族の来訪があった時はゆっくりした時間の中で話が弾むように努めている	利用者の平均年齢が高く、身体機能も年々低下しているため、ご本人からの馴染みの場所への外出等の希望は少なくなってきた。身内や知人などの面会があった時は、居室でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し利用者同士の関係性にも気を配り孤立しないように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の方には、時々面会に訪れたりしている。又、いつでもお手伝いすることもご家族へ伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を話しやすい関係が築かれており、食の希望も含めできる限り思いに沿うよう努めている	入居時の面談では、本人や家族の希望する「生活の仕方」を聴き取り、その思いを大切にしながらケアプランを作成している。また、日々の生活の中でも希望があった場合には、できる限り対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問し、生活環境を把握している。入所前の情報についてはご家族からの聴き取りや居宅ケアマネより得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調を観察しながら持っている残存能力を生かして一日が遅れるように支援したい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り等で現状を把握しスタッフ、家族、ご本人の意見や要望を反映した介護計画を立てている	毎日の申し送りでは、利用者の状態の変化を都度報告し、職員に周知している。月1回の全体会議には職員全員が参加し、利用者全員のカンファレンスを行い、必要に応じてケアプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌への記入、朝夕の申し送りで情報交換を行い職員間で共有している。必要があった時には計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回のボランティアを通して会話を楽しんで頂いたりしている。又、訪問マッサージの協力も得て心身ともにリラックスできる豊かな時間を過ごしている		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診で相談や指示を仰ぎ健康管理を行っている。通院時、家族が付き添い困難な場合は職員が付き添い、情報をご家族へ報告している	入居時に希望するかかりつけ医を確認し、現在も入居前のかかりつけ医にかかっている方がいる。通院の付き添いは家族がする場合もあるが、職員が付き添うこともあり、その場合、状態変化については都度、電話などで家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している訪問看護へ利用者の状態を週1回報告して定期来訪により健康チェックをして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医への情報提供を行っている。又、退院後は主治医と連携しながら必要な医療を受けつつ安心して生活できるよう訪問看護とも連携し対応していく		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期ケア対応指針を作成し、必要な方については早い段階から本人、ご家族の意向を伺い話し合っている。施設でできる事、できない事を伝え説明し理解して頂いている	終末期についての意向確認の必要がある人については、本人、家族と話し合いをしている。終末期ケアの研修については、今後実施していく予定である。	利用者の平均年齢が高齢であることを考慮し、重度化・終末期ケアについては早期に本人や家族の意向確認をされることを期待します。また、終末期ケアの体制作りの一環として職員研修の実施も期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に適切な対応ができるように、定期的に学ぶ機会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを整備し会議等で全職員が周知している。又、消防計画に沿って年2回、昼夜を想定し避難訓練を実施している	避難訓練は隣接する同法人のショートステイと合同で行っている。車椅子利用者は2名いるが、段差のない安全な避難経路が確保されている。近隣住民にも非常時の協力を依頼している。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールに基づき、一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけている	言葉遣いや対応の仕方が馴れ合いにならないよう、日頃から管理者が注意喚起しており、職員も気を付けている。排泄時の誘導の仕方等も、本人の自尊心を傷つけないような声掛けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活ペースに合わせて本人の意思表示が容易にできるような環境作りを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を理解し、その方のペースを大切にしたい雰囲気作りを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	可能な限りその日の洋服はご自分で選んで着用している。又、本人やご家族の希望により訪問美容をお願いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材でバランスを考えた献立を作成している。嗜好にも配慮し食事が楽しみになるよう食環境にも気を配っている	献立は利用者に好評だったものを取り入れたり、敬老会では寿司、誕生会ではデザートを豪華に盛りつけたりと食べることが楽しみになるような工夫をし、利用者も喜んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を記録することでその日の状況を把握することが出来る。様子観察が必要な利用者に関しては申し送りで伝達している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。義歯使用者はポリドントで除菌洗浄を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行っている。現在は日中のオムツ使用者はおらず自立へ向けた支援を行っている	チェック表を利用することで利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。パットを使用している方はいるが、日中・夜間とも、おむつ使用者はいない。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事の提供に努め、十分な水分摂取を促している。場合によっては訪問看護へ相談し助言を頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定はあるが、できる限り希望に沿った支援をしている。気分転換が図れるようゆったり入浴して頂いている	入浴は毎日実施しており、利用者の希望や心身の状況に応じて入浴の時間帯を決めている。入浴の順番や湯温など希望があれば、都度応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意志で休めるように環境を整えている。夜間眠れない方には寄り添いお茶を提供するなどの対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員全員が目を通すようにしている。主治医の指示により服薬管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるように得意な手伝いをお願いするようにしている。又、足湯での談笑も気分転換になっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は散歩や足湯で気分転換をしたり、買い物同行をお願いしている。又、季節の移り変わりを感じて頂けるよう紅葉見物やお花見ドライブなどに出かけている	天気の良い日はなるべく近所を散歩するようにしている。また、車での外出を好む利用者が多いので、景色のいいコースや季節の変化を楽しめる場所にドライブに行ったりして外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物同行の際にはご本人が選び購入している。個人の小使いの収支はご家族へ毎月報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供や家族から電話があれば居室でゆっくり会話ができるように配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を出ると共有スペースが目に入り自然とホールへ集まってこられる。明るく開放的なホールで四季の移り変わりを感じ生活感の残る居心地の良い場所となるよう配慮している	ホールは光が入りやすい作りで明るく、湿度や温度管理にも配慮されている。壁には利用者と職員の手作り作品が飾ってあったりと家庭的な雰囲気があり、殆ど利用者が日中ホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	一日の大半をホールで過ごす方が多く、ソファで洗濯物を畳んだり、談笑したり、テレビを観たりしながらゆったり過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂くためにご家族と相談しながら愛用していた物を持参して頂き安心できる空間となるように配慮している	利用者本人の使い慣れた家具や、位牌などが持ち込まれ、その人にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮しながら自立した生活が送れるよう支援している		